

「あなたの家」

～あなたの建て方は決まっていますか？～ 創世記37：3～11

今日はこどもの日です。神さまは、子どもたちみんなに夢をくれました。あの世界で戦うオリンピック選手もヨチヨチ歩きの子どもの時期がありました。夢は信じれば必ずかないます。聖書にはヨセフという人物が出てきます。ヨセフには11人の兄弟がいました。ヨセフは12人兄弟の下から2番目の兄弟でした。そしてとくに父親から愛されてえこひいきされて育ちました。結果、ヨセフはお兄さんたちが嫌いで怒って欲して告げ口したりするエラそうな子になってしまいました。お兄さんたちもヨセフのことが嫌いなので、とうとうお父さんのいないところにヨセフを連れて行って井戸の中に落としました。そして放ったらかしにしました。そうしてこの内に奴隸商人がその井戸の前を通り、ヨセフは奴隸としてエジプトに売られたのです。でも、ヨセフは優秀だったのでポティファルという大臣に仕えることになりました。でもまたそこで悲しい事件が起こります。ポティファルの奥さんがヨセフを好きになって誘惑してきたのですが、ヨセフがそれを断ると大きな叫び声をあげ、召使いたちを呼び寄せ、ヨセフが自分に乱暴をしようとしたと嘘をついたのです。そしてヨセフは牢屋に入れられてしまうのです。でもそこでもヨセフは王様の夢の解き明かしをして、ついにはエジプトで王さまの次に立派な大臣にまでなったのです。

■ やってはいけないこと

ヨセフはお兄さんたちに嫌われて、井戸に落とされて奴隸になったり、牢屋に入れられたりしました。でも最後にはエジプトで2番目に偉い人になりました。このようになるためにはいけないことが3つあります。それは「えこひいき」「エラそう」「告げ口」です。これらをやっていると最初のヨセフみたいになってしまいます。そうなりたいですか？いやですよ！だったら心の中にある自分ではない悪いヤツに勝利しましょう。その悪いヤツは私たちが持っている神さまからもらっているオリンピック選手のような能力が発揮されて夢を実現させること、みんなが成功することを阻止しようとしているのです。だから戦って勝利しましょう。

■ がんばること

大臣になったヨセフの様に夢をかなえるために頑張らなければいけないことがあります。それは「諦めない」「ふてない」「怒らない」ことです。ヨセフはえこひいきされて育って、エラそうだったり告げ口したり悪いところがいっぱいありました。でも、神さまはヨセフの心にあるこの様なずるい心を取るために何十年も修行に出しました。それがエジプトでの生活です。するとヨセフはどんどん変わっていききました。このエジプトでヨセフが学んだことは「諦めない」「ふてない」「怒らない」でした。ヨセフはエジプトで、無実なのに牢屋に入れられたり約束を破られたりいろいろな経験を経験しましたがこの3つを頑張りました。結果ヨセフは素晴らしい人物と思われる人物になりました。みなさんはどうでしょう。周囲の人から素晴らしい人物だと思われているのでしょうか？もしもそうでないならこの3つがあるからです。だから、ヨセフを見習って頑張らしましょう。

■ 大人のみなさんへ

私たち大人が子どもたちの成長に何をすることが出来るでしょうか。危険から遠ざけて安全に暮らせるようにするのではなく、子どもたちが経験する様々な物事とどう向き合うかを教えるのです。研究結果として「ピグマリオン効果・期待効果」「ゴールム効果・悪印象効果」があります。育て方によって同じ母親から生まれた生物でも人格や態度が全然違うということです。日本のことわざに「弟子は師を越えることが出来ない」とあります。師は弟子を育てるのに自分の持てる力のみを伝えて、自分を越える存在だと思っただけで育てていないからです。ここで言う師は親です。弟子は子どもです。親が我が子に向かう時にどう接するかが子どもの将来を決めるのです。そのために教会があります。教会には子どものコミュニティーがあります。この中で子どもたちは多くのことを学びます。その中で教会の大人が関わっているいろいろな大人から声をかけられることによってさらに多くのことを経験し学ぶのです。私たち大人は、子どもたちに「お互いに助け合う」ことを教えなければいけないのです。それなのに今は子どもたちから「苦難・困難・災難」を取り去ることをしています。だから子どもたちは「無難」に生きます。こんな無難に生きた子どもたちが感謝の心を持つことが出来るのでしょうか。誰かと助け合うことが出来るのでしょうか。だから

大人は「苦難・困難・災難」を取り去ることではなく、共に立ち向かっていくことが必要です。

■ 大人がしなければいけないこと

子どもたちと共に「苦難・困難・災難」と立ち向かうためにしなければいけないことの1つに「善悪を模範で示す～御言葉に生きる～」があります。子どもたちに善悪を言葉で伝えて行動が言っていることと違えば、子どもはその大人を信用できないと言われたことも聞かせません。子どもたちは大人を通してでなければ学ぶことが出来ません。子どもの前で夫婦げんかをしておいて「ケンカをするな」と言って子どもたちが受け入れられるでしょうか？ですから口先だけで教えるのではなく自らで実践して模範を示しましょう。【詩篇 1:1～3】「幸いなことよ。悪者のほかりごとにも歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」とあるではないですか！子どもたちにもこうなって欲しいのであれば、私たち大人がこうしましょう。次に「感をきたえる～祈り～」をしましょう。子どもたちは「感」が鋭いです。でも祈る機会が少ないのでどんどんその感が鈍くなっています。そしてその「感」正しいか否かは祈れば分かります。パウロも伝道旅行の祭に【使徒 16:6など】「…聖霊によって禁じられたので…」と航路を変えている記事がたくさんあります。祈る生活を始めましょう。1日のはじめを祈りから、終わりを祈りで。【1コリ 10:31】「あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をすることも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」とあります。そうするために祈って神さまからこたえをもらってそのこたえを子どもたちに教えましょう。最後に「夢を見る姿～信じる心～」を持つことです。大人が夢や信じる気持ちがもてないの子どもが持つのは無理です。【ピリピ 2:13】「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」とあります。しかもこの夢は自分のためのものではないのです。人は隣人に感謝されることで自分の存在価値が分かるように潜在的につくられています。だから子どもたちに、大人が隣人からありがとうと感謝されている姿を見せてあげましょう。すると「夢が叶うと喜びがある！」と学びます。「信じようとする」「祈ろうとする」「失敗した時に自分を改めようとする」姿を模範で示す…これだけです。従うことはいけにえに勝ります。ぜひ実行してください。教会は成功者が集まる場所ではありません。自分の罪を知った人が集まる場所です。自分の持っている重荷を知っている人が集まる場所です。その重荷を下ろし、隣人と互いに負い合い、そしてどう生きるかを祈る場所です。ぜひ子どもたちのために、また、自分自身が変わるために、命を捨てて十字架にかかってくださった神さまのために人生を尊いものにしていきましょう。【マタイ 7:11～14】「してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましょう。それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」教会に集う人たちは、この世の人たちが選ぶ滅びに至る大きな入りやすい門ではなく、いのちに至る小さな入りにくい門を選び、自分だけではなく、自分に関わる周囲の人たちにも祝福されて欲しいと思います。